

サウンディング型市場調査の結果を踏まえた 農業試験場跡地利用の検討状況について

山口県・山口市

Contents

- 1 サウンディング型市場調査について 3頁
- 2 ゾーニングの考え方について 17頁
- 3 今後のスケジュールについて 24頁

1 サウンディング型市場調査について

中間整理

- ▶ 令和5年11月に「山口県農業試験場跡地利用基本計画策定に向けての中間整理」を取りまとめ、跡地に導入する機能の方向性等について整理

「未来のまち」として想定される対象地への導入機能

- 1 居住・生活利便機能
- 2 地域交流機能
- 3 まちのリビング機能
- 4 遊び・学び・文化機能
- 5 チャレンジ支援機能
- 6 資源・エネルギーマネジメント機能

調査の実施

- ▶ 中間整理において整理した、各機能等における民間活力の導入の可能性（市場性・実現可能性）の把握、アイデアの収集、事業手法の検討等を行うため、サウンディング型市場調査により民間事業者と対話実施

参加事業者

- 10事業者
(建設業、不動産業、小売業、サービス業、その他の業種)

対話期間

令和6年1月30日から2月2日

主な提案・意見

資料2「サウンディング型市場調査結果の概要」のとおり

調査の分析・整理

- ▶ サウンディング型市場調査を通じて得られた導入機能に対する提案・意見や民間活力の導入に向けたポイントについて、次頁より分析・整理

分析・整理項目

導入機能について
基盤整備等について
事業者公募について
まとめ

- ▶ 今後、ゾーニングイメージを含め、農業試験場跡地利用基本計画に反映

1 サウンディング型市場調査について

(1) 「未来のまち」として想定される対象地への導入機能に対する提案等

ア 居住・生活利便機能（居住関係）

中間整理

【機能イメージ】

- 多世代の住民同士の交流等を生み出す生活機能
- 生活に潤いや豊かさをもたらす、新たなコンセプトを持った生活機能

【施設イメージ】

- ・ 多世代が共生できる居住施設（コンセプト型住宅）

意見・提案（主なものや注目点）

- コンセプト型の集合住宅や戸建て住宅の導入を想定しており、特に集合住宅は、山口県への移住・定住につながるものがよいと考えている
- 居住機能だけでなく、エリアマネジメントなどを介して生活利便や地域交流等の諸機能とも一体感を保ち、対象地全体として機能していく必要がある
- 空き家の増加が問題となっている中、跡地内の居住機能としては、戸建て住宅よりもコンセプトを持たせた賃貸住宅を導入して、周辺地域の空き家や空き地に居住者を呼び込むような手法を検討してはどうか

〈提案のあった主な機能等〉

- ・ 定住促進や子育て支援などを目的としたコンセプト型集合住宅、戸建住宅 など

分析・整理

- ➔ 機能の導入に当たっては、移住・定住につながる仕組みや周辺の空き家の状況等を考慮し、コンセプト型集合住宅（賃貸）を中心とした方がよいことを確認
- ➔ 他の機能と一体感を保ちつつ、相乗効果を生み出すためには、別途、対象地全体のエリアマネジメント機能の導入が必要

1 サウンディング型市場調査について

(1) 「未来のまち」として想定される対象地への導入機能に対する提案等

イ 居住・生活利便機能（生活利便関係）

中間整理

【機能イメージ】

- 多世代の住民同士の交流等を生み出す生活機能
- 生活に潤いや豊かさをもたらす、新たなコンセプトを持った生活機能

【施設イメージ】

- ・ 生活利便施設（小売、サービス、飲食店舗等）

意見・提案（主なものや注目点）

- 生活利便の機能として、周辺にはない新たなものを導入した上で、地域交流スペースなど他の機能を併設したり、様々な地域関係者と柔軟に連携し、地域の価値の向上につなげる取組が可能
- 民間事業として全体を維持・再投資していくためにも、ある程度の規模の収益性のある施設を核として置きたい

〈提案のあった主な機能等〉

- ・ 飲食店・カフェ、地場産マルシェ、小売店舗・物販店舗 など

分析・整理

- ➔ 地域の価値を高める上では、対象地周辺の既存の施設とは重複・競合せず、相乗効果が期待できるものを導入した方がよいことを確認
- ➔ 民間事業者による対象地全体の利活用を成立させるためには、核となる収益性のある施設が必要

1 サウンディング型市場調査について

(1) 「未来のまち」として想定される対象地への導入機能に対する提案等

ウ 地域交流機能

中間整理

【機能イメージ】

- 地域活動の拠点機能
- 既存の活動等と連携・連動することで相乗効果を生み出す機能

【施設イメージ】

- ・ 地域交流・活動施設
- ・ 交流や活動の活性化を促進する汎用性の高いスペース 等

意見・提案（主なものや注目点）

- 地域交流センターや多目的スペースをはじめとした、日常的な活動の場があるとよい
- 周辺地域も巻き込みながら、NPOなどと連携して、民間主導でエリアマネジメント機能を設け、導入機能の融合や内外への情報発信を担うことが重要

〈提案のあった主な機能等〉

- ・ 地域交流センター、芝生広場等の多目的スペース、オープンな学習スペース、カフェ、ライブラリー、カルチャー教室、エリアマネジメント機能 など

分析・整理

- ➔ 導入機能の連携や内外への情報発信を担うものとして、エリアマネジメント機能の導入が必要
- ➔ 地域交流センターは、日常的な活動の場として多様な交流等を生み出し、他機能への好影響が考えられることから、その立地が有効であることを確認

1 サウンディング型市場調査について

(1) 「未来のまち」として想定される対象地への導入機能に対する提案等

エ まちのリビング機能

中間整理

【機能イメージ】

- 誰もが気軽に利用でき、心の安らぎや癒しに繋がる機能
- 若者や子育て世代の関心を集める広域的なサービスやイベントの創出機能

【施設イメージ】

- ・ 公園、芝生広場、多目的グラウンド
- ・ カフェ、物販施設 等

意見・提案（主なものや注目点）

- 公園・広場、カフェ、多目的に利用できるグラウンドなどの機能を設け、人々がくつろぐことのできるサードプレイスの形成を目指す
- 活用方策としては、若者や子育て世代など多くの人にとって魅力ある空間形成に向けた野外イベントや催事の開催などを行う

〈提案のあった主な機能等〉

- ・ 公園・広場、イベントスペース、ドッグラン、カフェ、レストラン、物販施設、書店、多目的グラウンド、全天候型スポーツパーク など

分析・整理

- ➔ 公園や広場に民間事業としてカフェや飲食店、書店、ドッグランなどを併設することで、多様な人々がくつろげる空間を創出することが期待できる
- ➔ 魅力的な空間を形成するためには、野外イベントや催事の開催などの活用方策が重要

1 サウンディング型市場調査について

(1) 「未来のまち」として想定される対象地への導入機能に対する提案等

オ 遊び・学び・文化機能

中間整理

【機能イメージ】

- すべての子どもに開かれた遊び場・学び場の機能
- 子育て世代をはじめ幅広い世代を惹きつける体験機能

【施設イメージ】

- ・ 全天候型の子どもの遊び場
- ・ 体験型学習施設
- ・ 若者向けアミューズメント施設 等

意見・提案（主なものや注目点）

- 子どもの発達段階に応じて多様な遊びを体験できる機能や、未来を切り開いていく力をつける様々な探求型の学び機能があるとよい
- 若者や子育て世代、中高年を問わず、多様な世代が利用でき、自己成長の機会を提供できる体験型のアクティビティがあるとよい
- 具体的な検討をする際には、事業性の確認が必要となる
- 収益などの面で事業性を確認できれば、既存の農地の一部活用も想定される

〈提案のあった主な機能等〉

- ・ こどもの遊び場、体験型施設、自習・学習スペース など

分析・整理

- ➔ 次代を担う子どもたちの成長に合わせた、親子で遊び、学べる空間が必要であることを確認
- ➔ 多様な世代が利用できる、体験型の施設が必要であることを確認
- ➔ 機能が導入されるには、事業性を確保できるかがキーポイントとなる

1 サウンディング型市場調査について

(1) 「未来のまち」として想定される対象地への導入機能に対する提案等

カ チャレンジ支援機能

中間整理

【機能イメージ】

- 新たなチャレンジやしごとづくりの機能
- 民間企業等による社会実装に向けた実証機能
- 官民連携による取組創出機能

【施設イメージ】

- ・ コワーキングスペース
- ・ 民間企業等による研究施設
- ・ スタートアップ等支援施設 等

意見・提案（主なものや注目点）

- 若者に魅力あるエリアとするために、産学官連携を想定した機能や、県内大学等と連携した機能があるとよい
- 導入に当たっては、既存の同様な機能とのすみ分けが必要

〈提案のあった主な機能等〉

- ・ ワーキングスペース、ビジネスセンター、貸し会議室、インキュベーション施設、大学のサテライトキャンパス、企業と大学の共同研究のための施設 など

分析・整理

- ➔ 産学官連携を想定した機能や、大学等と連携した機能については、これを主導する事業者が存在するなどの条件が整えば導入される可能性があることを確認
- ➔ 引き続き、付加的な機能（中心的な機能をさらに高めるために導入を検討する機能）として位置付けることが必要であることを確認

1 サウンディング型市場調査について

(1) 「未来のまち」として想定される対象地への導入機能に対する提案等

キ 資源・エネルギーマネジメント機能

中間整理

【機能イメージ】

- 自然環境を活用した循環型の取組の実践機能
- 太陽光等を活用したエネルギー地産地消の実現機能

【施設イメージ】

- ・ サーキュラーエコノミーや、エネルギーの地産地消を実現する施設 等

意見・提案（主なものや注目点）

- 持続可能なまちづくりに向けて、自然エネルギーの積極的な活用や、エリア全体の脱炭素の取組が考えられる
- 既に様々な環境負荷の低減に取り組んでおり、導入する各機能や施設などにおいても脱炭素化の推進に貢献できる

〈提案のあった主な機能等〉

- ・ 太陽光・地中熱等のエネルギー活用、EV充電の敷設、蓄電池設備の有効活用 など

分析・整理

- ➔ 対象地に導入される他の機能の内容に応じて、対象地全体で民間事業者により様々な脱炭素化の取組が期待できることを確認
- ➔ 他の導入機能に応じて実施内容を組み立てるものであり、引き続き、付加的な機能として位置付けることが必要であることを確認

1 サウンディング型市場調査について

(1) 「未来のまち」として想定される対象地への導入機能に対する提案等

ク その他

意見・提案（主なものや注目点）

- 導入される機能や諸課題への対応と連動する形で様々な技術を活用し、「未来のまち」としてのスマートシティを目指すことが重要（通信環境の整備、AIカメラによる画像センシング技術の導入、自動運転やドローンなどの応用技術の活用 など）
- 「未来のまち」として、渋滞問題や高齢化社会へ対応しつつ、当該地に誰でも気軽に足を運べるような自由な移動手段を提供していくためには、交通インフラの整備が必須と考える（バス停の敷地内への移設や待合スペースの整備、バスターミナルの設置、デマンドタクシーの停留所の設置、地域交通モデルの検討、シェアサイクルの活用など）
- 昨今の各地での自然災害状況を鑑み、当該地内に周辺住民の防災（避難）拠点としての機能を盛り込むことが非常に重要と考える

分析・整理

- ➔ スマートシティの実現に関しては、対象地へ導入される機能に応じて、活用するデジタル技術を選択することが有効
- ➔ 交通アクセスの向上や交通渋滞へ対応するための交通手段のあり方についても、工夫が必要

1 サウンディング型市場調査について

(2) 機能の配置

提案のあった施設等の配置イメージ（集約）

【北西エリア】

- コンセプト型集合住宅等
- 公園・広場
- 体験型施設
- チャレンジ支援機能
など

【北東エリア】

- 地域交流センター
- 公園、グラウンド等
- 子どもの遊び場
など

【南西エリア】

- 小売店舗、飲食店舗等
- 子どもの遊び場
- 体験型施設
- チャレンジ支援機能
など

【南東エリア】

- 公園、グラウンド等
- 物販施設、書店、カフェ等
- 小売店舗、飲食店舗等
- 子どもの遊び場
- 地域交流センター
など

機能ごとの整理

居住・生活利便機能(居住系)	居住環境の側面からは静穏な北西側～北側が適する
居住・生活利便機能(生活利便系)	外部からのアクセス条件の観点から、主として県道山口防府線に沿った南西側～南側への配置が適する
地域交流機能	地元要望や地域づくり拠点として、大内小学校側への配置について検討を進める。検討にあたっては他機能との効果的な連携にも配慮する必要がある
まちのリビング機能	既存の緑地の活用を考慮する場合には南東側が適するが、その点を考慮しなければ、配置の自由度は高い
遊び・学び・文化機能	具体的施設の設置に当たりどの機能との結びつきを重視するかにより適地も異なってくるため、配置の柔軟性を確保することが望ましい
チャレンジ支援機能	配置の自由度が高く、西側を中心にどのゾーンであっても配置が可能
資源・エネルギー・マネジメント機能	機能の性質上、特定のゾーンに配置するものではなく、対象地全体に導入するものとして位置付けられる

1 サウンディング型市場調査について

(3) 基盤整備等

ア 基盤整備主体

意見・提案（主なものや注目点）

- 提案内容と別軸では考えにくく、行政手続の複線化や期間、工数増等を避けるため、事業者が造成から施設整備、維持管理・運用まで事業に含めて一体で実施することが望ましい
- 事前に行政において、水路や調整池、区画道路等の整備を実施することが望ましい

分析・整理

- 民間事業と基盤整備が一体的に実施できる可能性があることを確認
- 民間事業者による実施について、実現可能性を高めるためにも実施手法や実施条件の整理などが必要

イ 隣接道路

意見・提案（主なものや注目点）

- 敷地東西の市道（長野御堀2号線、小野氷上線）の拡幅や交差点改良を希望
- 導入機能によっては、県道から進入できる信号機付きの交差点の設置を希望

分析・整理

- 跡地利用とあわせた隣接道路等の整備希望が多い
- 隣接する道路について、整備の方向性等を示すことや先行して整備を実施することで、事業者の参画を促すことにつながる

1 サウンディング型市場調査について

(3) 基盤整備等

ウ 地盤高

意見・提案（主なものや注目点）

- 内水氾濫への影響や周辺との調和を考慮し地盤高は極力上げないことが望ましい
- 主として居住系施設を立地する場合は、洪水ハザードマップの想定最大浸水深への対策のため、必要な高さまで地盤高を上げることが望ましい

エ 雨水排水

意見・提案（主なものや注目点）

- 内水氾濫への影響を懸念する意見が多くあり、民間事業においても、開発基準又はそれ以上の安全度を確保して調整池を設置していることなど、雨水排水対策を重要視
- 調整池については、景観に配慮し建物や駐車場の地下に設置することや、修景施設として活用する方法が考えられる

分析・整理

- 地域の実情を考慮し、慎重な取扱いが必要
- 基盤整備を民間事業者が一体的に実施する場合には、周辺の土地利用との調和を考慮した上で取扱いの指針となる考え方を示す必要がある

分析・整理

- 雨水排水対策を重要視する事業者が多い
- 基盤整備を民間事業者が一体的に実施する場合には、建物や駐車場の地下空間の利用などにより、合理性の高い調整池の配置となることが期待できる

1 サウンディング型市場調査について

(4) 事業者公募等

意見・提案（主なものや注目点）

- 全体の一体感や収益性の面で民間の知恵を最大限発揮させるためにも、土地を分けず一括で公募した方がよい
- 事前調査や社内協議の期間も考慮した、余裕のある公募スケジュール設定を希望
- 公募に向けて、参画に関心を有する事業者が集まり、行政と意見交換できるような枠組みがあるとよい



分析・整理

- ➔ 事業の実現性や持続可能性などの観点から、民間事業として実施する範囲や要求水準等を検討し、民間事業として事業効果が最大限発揮されるバランスの取れた公募条件を設定していく必要がある
- ➔ 様々な業種の事業者が協業し、より良い跡地利用の提案を行ってもらうためには、参画に関心を持つ事業者等に幅広く情報発信を行いながら、関心や参画意欲をさらに高める枠組み（プラットフォーム等）を提供していくことが重要

1 サウンディング型市場調査について

(5) まとめ

確認できた事項

- 中間整理で示した各機能について、詳細な検討については土地の現況などの諸条件等を整理して提示する必要があるものの、民間事業として成立する可能性があることや民間資金・ノウハウの活用が可能であることを確認
- コンソーシアム等の形成により、民間事業として対象地全体の利活用を検討されていることを確認
- 民間事業として各機能をまとめて検討することで、全体としての一体感を保ちつつ相乗効果が発揮されること、収益性の面などから民間事業として成立する可能性が高まることなどを確認
- 公募に向けて、様々な事業者の参画を促進する取組を引き続き実施していく必要がある

今後の方向性

- ➔ 民間活力を最大限活用して跡地の利活用を行っていくため、「未来のまち」の基本的な方向性のもとで事業者が一定の自由度を持って利活用の提案ができるような柔軟な跡地利用基本計画や募集要項等を整理する

2 ゾーニングの考え方について

- サウンディング型市場調査の結果の分析を踏まえ、ゾーニングの方向性を整理

機能ごとの整理（再掲）

居住・生活利便機能 (居住系)	居住環境の側面からは静穏な北西側～北側が適する
居住・生活利便機能 (生活利便系)	外部からのアクセス条件の観点から、主として県道山口防府線に沿った南西側～南側への配置が適する
地域交流機能	地元要望や地域づくり拠点として、大内小学校側への配置について検討を進める。検討にあたっては他機能との効果的な連携にも配慮する必要がある
まちのリビング機能	既存の緑地の活用を考慮する場合には南東側が適するが、その点を考慮しなければ、配置の自由度は高い
遊び・学び・文化機能	具体的施設の設置に当たりどの機能との結びつきを重視するかにより適地も異なってくるため、配置の柔軟性を確保することが望ましい
チャレンジ支援機能	配置の自由度が高く、西側を中心にどのゾーンであっても配置が可能
資源・エネルギーマ ネジメント機能	機能の性質上、特定のゾーンに配置するものではなく、対象地全体に導入するものとして位置付けられる

機能間連携の必要性

- 各導入機能は、それぞれが連携し、対象地全体として機能していくことが重要
- 導入機能とゾーニングを1機能1ゾーンの対応関係で整理すると、単なる機能の寄せ集めになってしまうおそれがあるため、機能間連携や相乗効果を最大限発揮するゾーニングの検討が必要

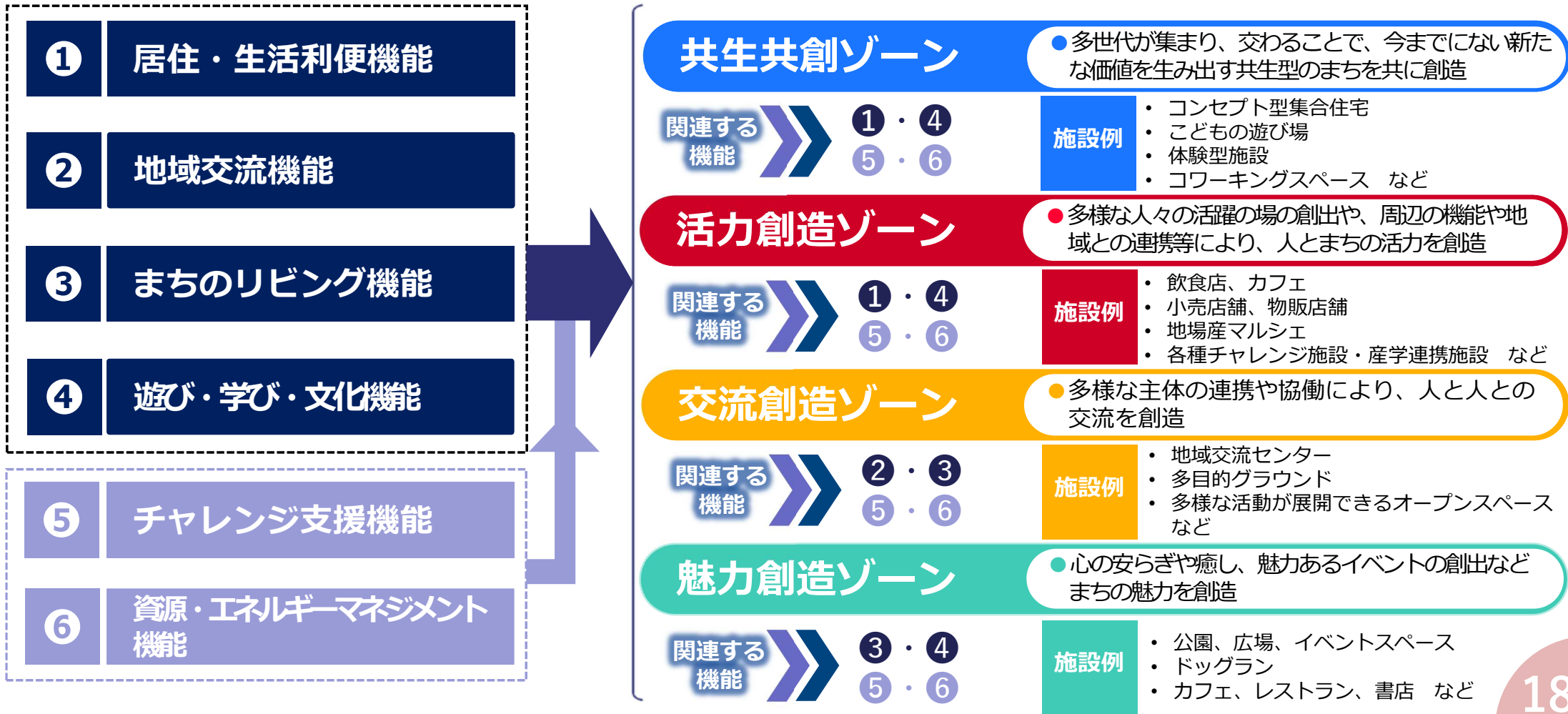


ゾーニングの方向性

- ➔ ゾーニングは、導入機能間の相互連携やゾーン間の連携、周辺地域との調和や連動等を踏まえ、民間参入に向け柔軟性を持った設定とする
- ➔ 民間事業者の創意工夫がまちづくりに活かせるよう、一つの機能が様々なゾーン内で配置できる（1機能1ゾーンの対応関係としない）ことにより、創造的かつ魅力的な活動の創出を目指す

2 ゾーニングの考え方について

- 「未来のまち」として想定される対象地への6つの導入機能について、機能間の連携や相乗効果が生まれやすい機能を組み合わせ、以下4つのゾーンを設定



2 ゾーニングの考え方について

1 共生共創ゾーン



多世代共生により新たな価値を生み出すゾーンです。コンセプト型集合住宅などの居住機能は、他の導入機能と一体感を保ちつつ相乗効果を生み出すとともに、山口県への移住・定住や周辺地域の空き家や空き地対策にも寄与することが期待されます。

また、親子で遊び、学べる機能や、多様な世代が利用できる体験型アクティビティなどを通じて、次代を担う子どもの豊かな人格形成や、多世代の交流なども期待されます。

多世代が集まり、交わることで、今までにない新たな価値を生み出す、共生型のまちを共に創造していきます。

機能例

- 多世代の住民同士の交流等を生み出す生活機能
- すべての子どもに開かれた遊び場・学び場の機能
- 幅広い世代を惹きつける体験機能
- 新たなチャレンジやしごとづくりの機能 など

施設例

- コンセプト型集合住宅
- こどもの遊び場
- 体験型施設
- コワーキングスペース など

2 活力創造ゾーン



エリアの活力創出拠点となるゾーンです。周辺にはない新たな生活利便機能の導入と、他機能の併設や、地域関係者との連携などにより、地域の価値の向上が期待されます。

また、多様な人々がそれぞれの個性に応じた夢と希望が叶う空間としての役割も期待されます。

多様な人材の活躍の場の創出や、周辺の既存施設や機能、地域との連携等により、人とまちの活力を創造していきます。

機能例

- 生活に潤いや豊かさをもたらす、新たなコンセプトを持った生活機能
- 子育て世代をはじめ幅広い世代を惹きつける体験機能
- 新たなチャレンジやしごとづくりの機能 など

施設例

- 飲食店、カフェ
- 小売店舗、物販店舗
- 地場産マルシェ
- 各種チャレンジ施設・産学連携施設 など

2 ゾーニングの考え方について

3 交流創造ゾーン



新たな地域の活動拠点となるゾーンです
多様な人々の知識や経験を取り込んで生かせる空間
が生まれることで、魅力的な活動が連鎖的に生まれる
ことが期待されます

また、多目的に利用できるグラウンドの整備により、
スポーツやレクリエーション活動などを通じた交流の場
としての役割も期待されます

多様な主体の連携や協働により、自発的・偶発的な
交わりなど、人と人との交流を創造していきます

機能例

- 地域活動の拠点機能
- 既存の活動等と連携・連動することで相乗効果を
生み出す機能
- 若者や子育て世代の関心を集める広域的な
- サービスやイベントの創出機能 など

施設例

- 地域交流センター
- 多目的グラウンド
- 多様な活動が展開できるオープンスペース など

4 魅力創造ゾーン



エリアの魅力創出拠点となるゾーンです
誰もがいつでも訪れることができ、様々な人がくつ
ろげるサードプレイスを創ることにより、幅広い世代
の人々を惹きつける魅力ある空間が生まれます

また、こうした空間を活用して、多世代をターゲッ
トにした多種多様な魅力あるイベント等が開催される
ことにより、周辺エリアを含めた活性にもつながること
が期待されます

心の安らぎや癒しの空間や、その空間を活用した野
外イベントや催事など様々なイベントの開催により、
まちの魅力を創造していきます

機能例

- 誰もが気軽に利用でき、心の安らぎや癒しに繋がる
機能
- 若者や子育て世代の関心を集める広域的なサービ
スやイベントの創出機能 など

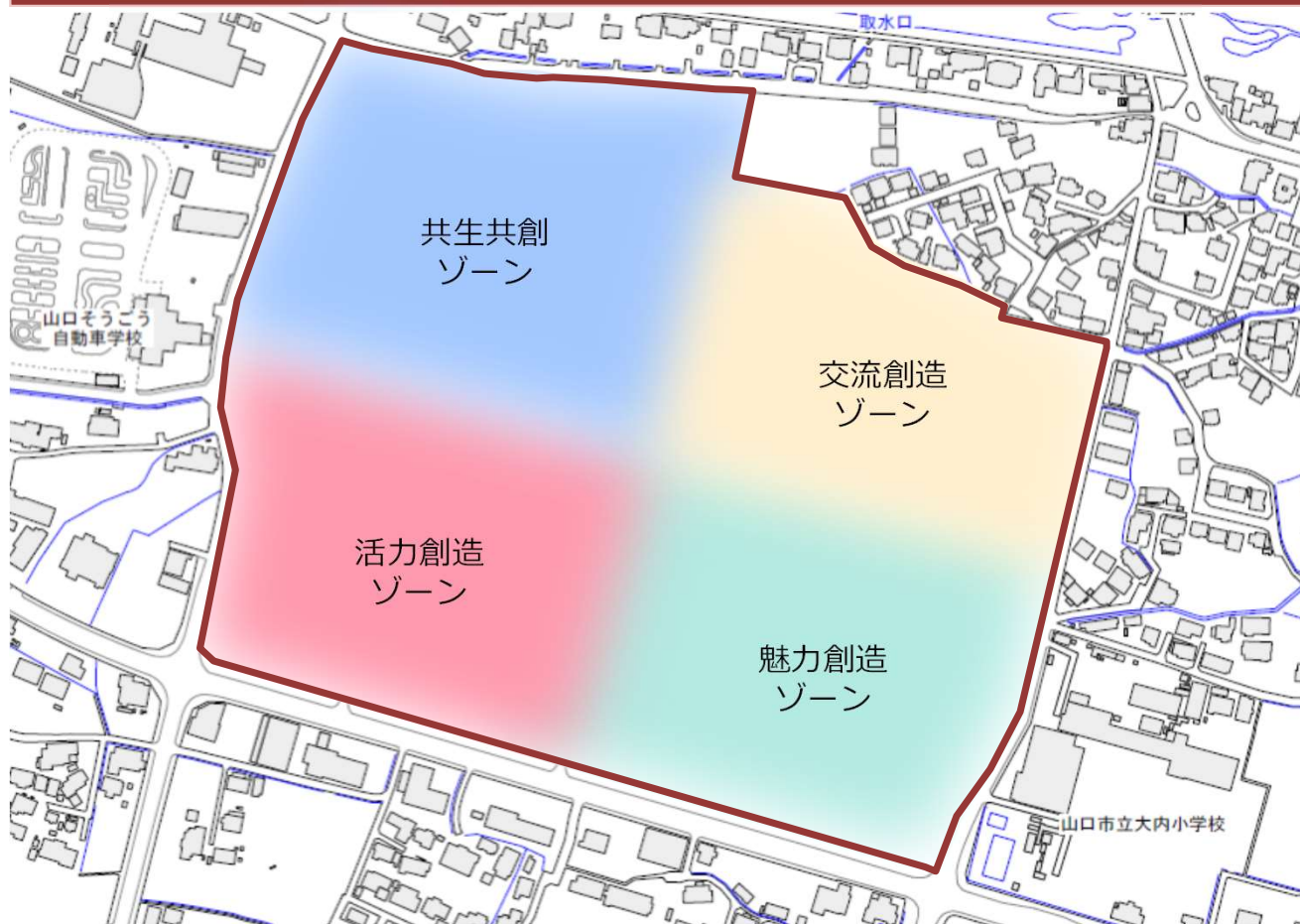
施設例

- 公園、広場、イベントスペース
- ドッグラン
- カフェ、レストラン
- 書店 など

2 ゾーニングの考え方について

- 「未来のまち」の核として、ゾーン間の連携や相乗効果、周辺との調和やつながりを意識しつつ、3つのゾーニング（イメージ）を設定
- 今後、各ゾーニング（イメージ）を検討の上、基本計画においてゾーニングを決定

A：周辺地域との連動を重視



《考え方》

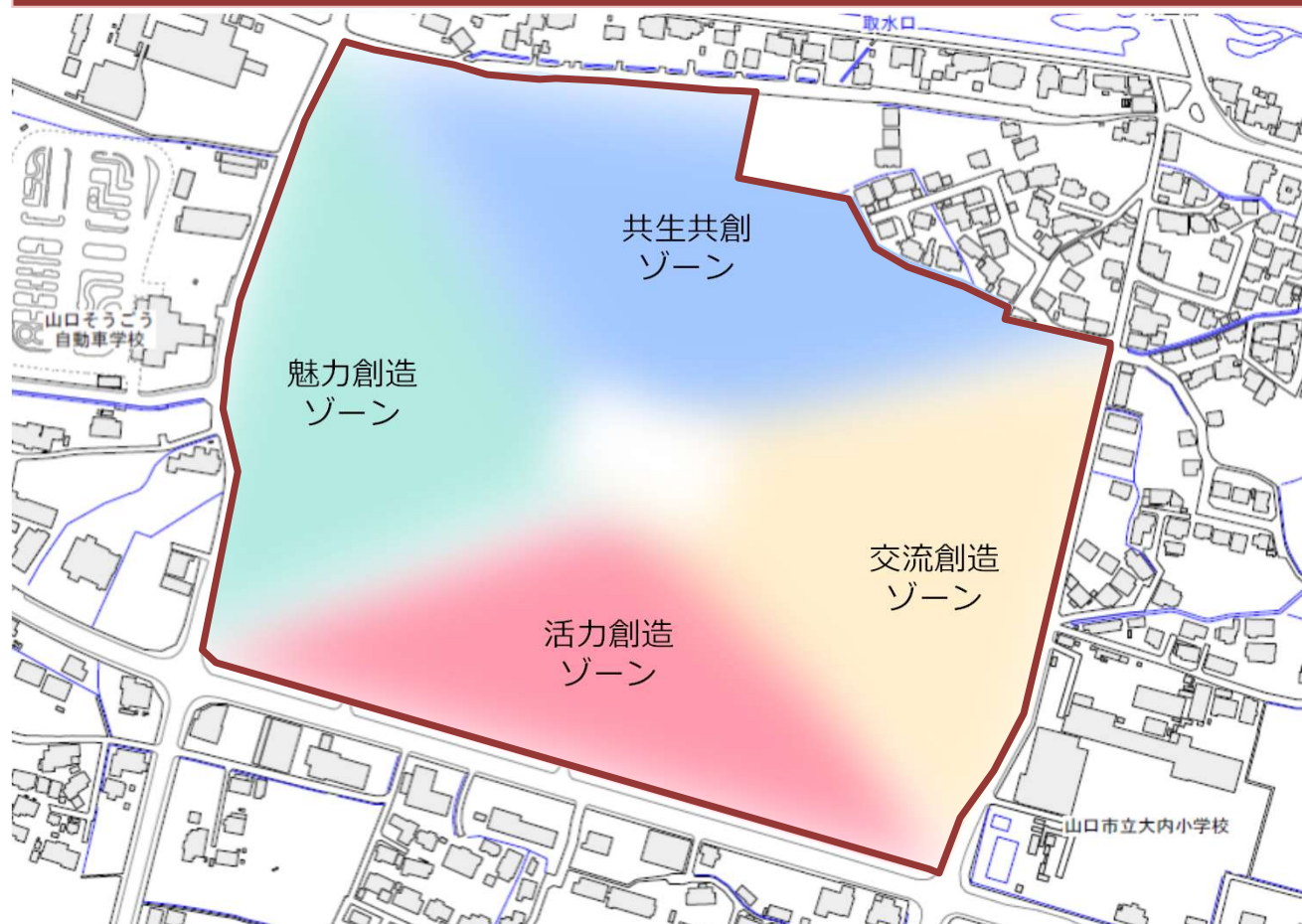
- 対象地のみならず、周辺の既存施設（学校や商業施設等）との連動を考慮した空間を重視

《Point》

- 大内小学校に隣接するエリアに魅力創造ゾーンを、既存商業店舗等に隣接するエリアに活力創造ゾーンを配置
- 地域に親しまれた公園は、既存の位置に配置
- 南西の賑わい空間（活力創造ゾーン）から各ゾーンに向かって落ち着きのある癒しの空間を演出

2 ゾーニングの考え方について

B : 放射状に広がる空間を重視



《考え方》

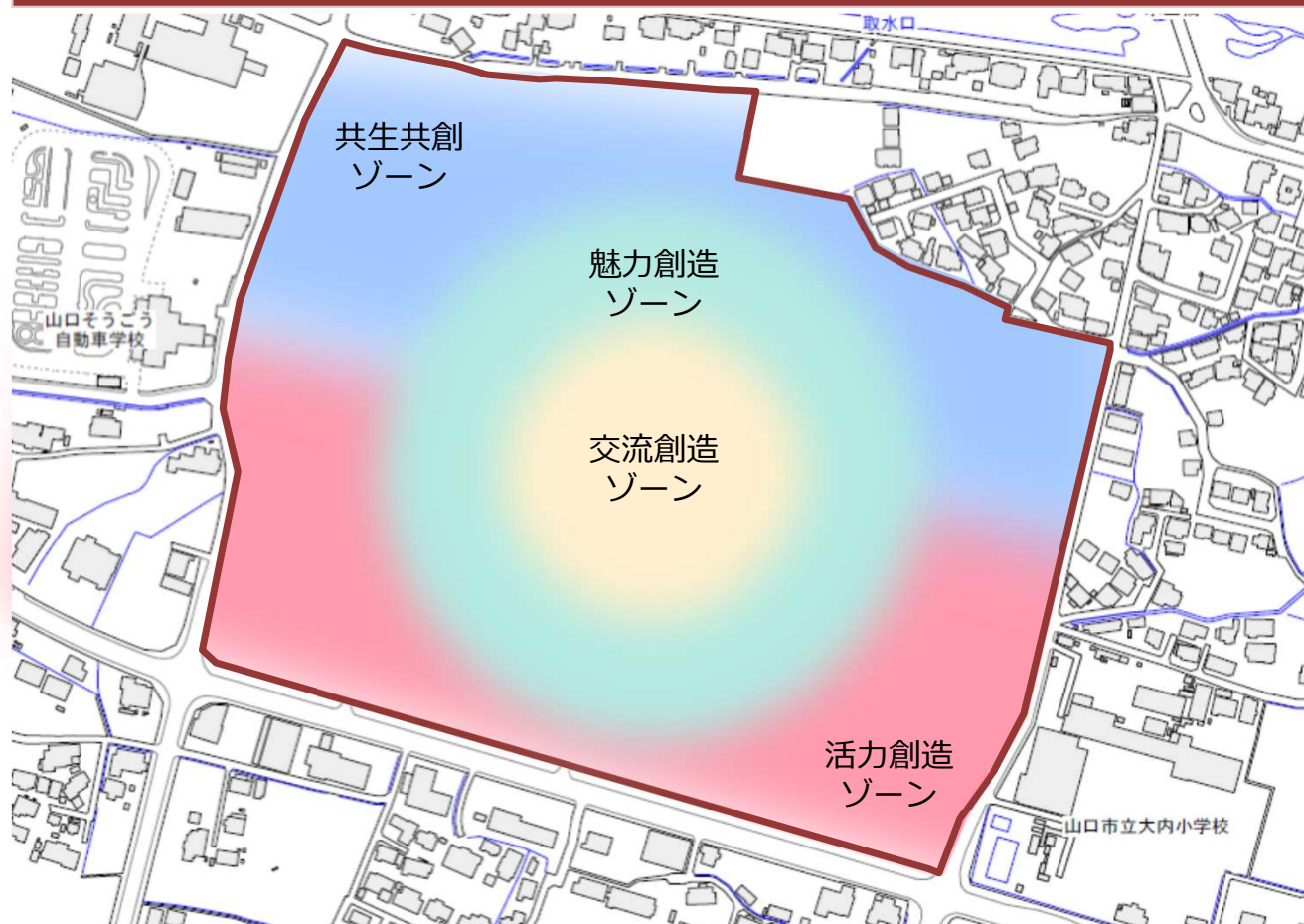
- 中心にシンボリックな施設や機能等を想定し、各ゾーンの特徴は外側にいくほど色濃く出る放射状の空間を重視

《Point》

- 対象地の中心から放射状に各空間の特徴が出るとともに、機能間連携による機能などが創造されるようゾーンを設定することで、連動や連携を生み出す空間を演出

2 ゾーニングの考え方について

C: 「創造的な交わり」が波及する空間を重視



《考え方》

- 中心に交流創造ゾーンを配置し、その周囲を魅力創造ゾーンが取り囲むことで、各ゾーン間との連携など、多様な主体が創造的に交わることのできる空間を重視

《Point》

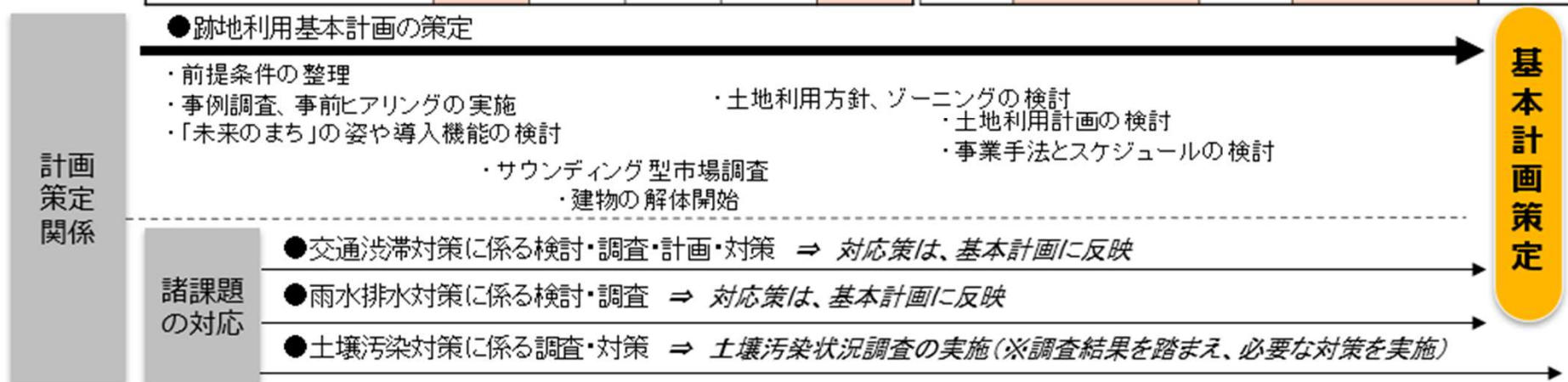
- 対象地外周は周囲の街並みとの親和性を考慮し、ロードサイドにはアイキャッチとなる機能を重点的に配置する一方、北側に共生共創ゾーンを配置
- 多様な主体の交流や共生共創、活力、魅力が円環状につながる空間を演出

3 今後のスケジュールについて

- 基本計画策定に向けたスケジュールは、次のとおりです。

令和6年5～6月頃	・農業試験場等跡地利用検討協議会審議(素案)
8～9月頃	・農業試験場等跡地利用検討協議会審議(最終案)
10月頃	・計画策定、公表

令和5(2023)年度						令和6(2024)年度						
～10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
	協議会				協議会		協議会			協議会		



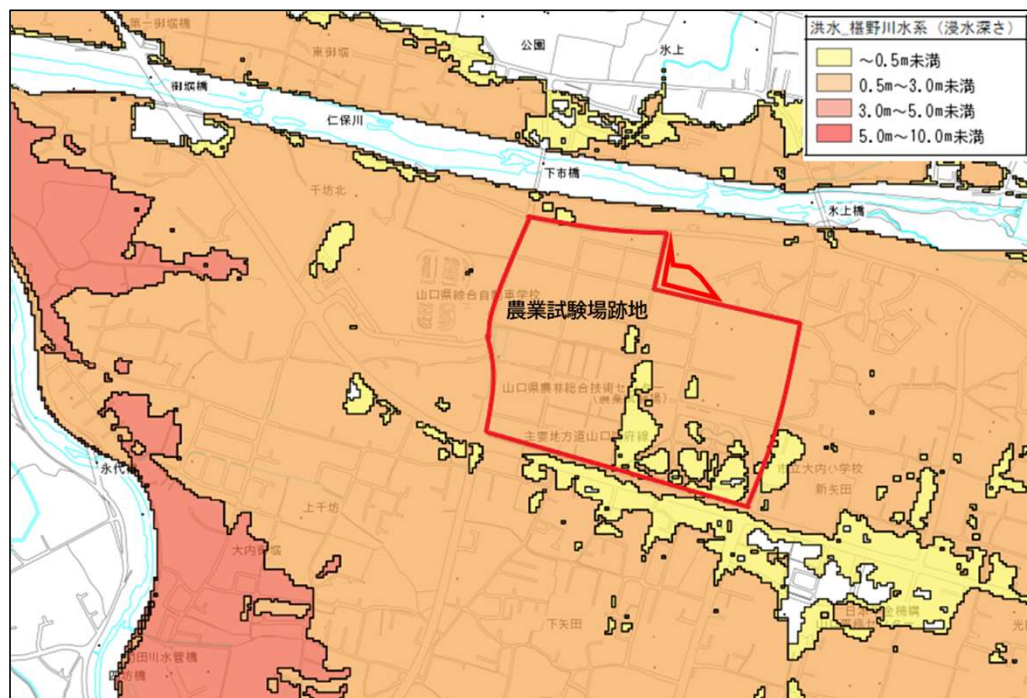
参考資料

【参考資料①】 周辺道路の状況



【参考資料②】 浸水想定状況

● 洪水ハザードマップ



➤ 0.5~3.0m未満の区分をさらに細分化した図

